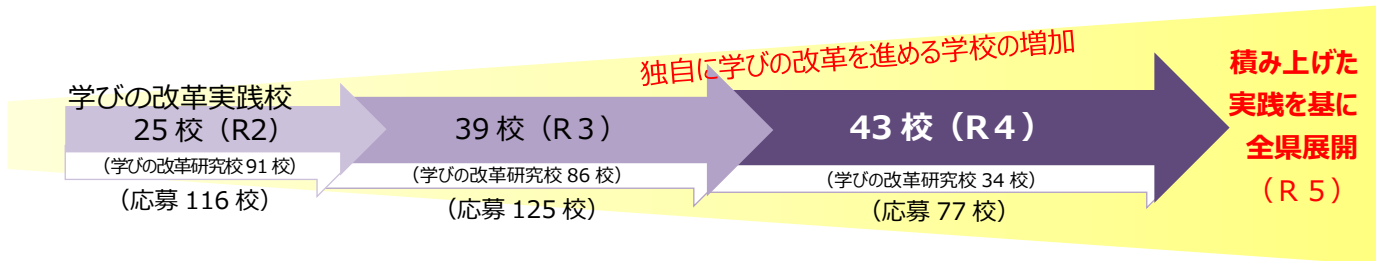


# 学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

## 学びの改革実践校応援事業の目的

これからの社会を見据えた学校づくり、授業づくりを進めようと一歩踏み出す校長を後押しし、学校のシステム改革や授業改革を支援して、「学びの改革」の実現をめざす学校の拡大を図る。



## 学びの改革実践校の取組

### ■ 須坂市立豊洲小学校 ～子供に委ね支える授業への転換～

豊洲小学校では、自分で学習方法を選択し自分のペースで学ぶ自由進度学習を実践している。

佐藤校長は、「自律して学ぶ力を育てる必要性を強く感じたのは、分散登校時、自分で学習を進めることに自信がもてない不安を吐露する子どもたちの声からでした」と振り返る。

そのような中、ミドルリーダー的な存在である山田教諭が、上智大学 奈須正裕教授の「自由進度学習」の研修を受講した。研修報告を受けた佐藤校長は、全職員へ研修内容を伝え、共通理解する場を設けた。山田教諭を皮切りに、3学期には、全学級で自由進度学習の授業に取り組んだ。



写真のAさんは、明治初期の歴史学習の最後、自分で調べた7人の人物についての資料を基に、年表を見ながら「オリジナルすごろく」づくりに取り組んでいる。以前の一斉授業では、課題を達成する進捗が早く、待つ時間が多かったという。しかし、各単元の最後に個々の工夫で取り組む課題を位置付けたところ、生き生きと取り組む姿がさらに見られるようになった。

「教師が教え揃える」授業から「子供に委ね支える」授業への転換により、子供に、自律して学ぶ力が着実に育ってきている。

### ■ 上田市立第三中学校 ～1人1台端末の利活用～

ICT 端末の利活用にあたり、齋藤校長は、生徒のタイピング技能の向上と職員研修の時間を位置付けることが必要と考えた。水曜日の朝読書を生徒のタイピング練習の時間に、また、月曜日と水曜日は清掃をなくして、放課後を職員の ICT 研修の時間にそれぞれ充てることとし、生徒にも日課変更の目的や意図を説明した。



端末の使い方についても、生徒会と共催で ICT 端末の使い方について考え合う「ICT 座談会」を開くことにした（写真）。生徒自身が自分事として ICT 端末とのつきあい方を考える機会となり、学校が目指す「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する生徒」の具体的な姿につながってきている。